
美少女なんてありえない

サトイモ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美少女なんてありえない

【Nコード】

N8949Z

【作者名】

サトイモ

【あらすじ】

とある事情で友達も作らず、微妙に引きこもりになっていた少年美里 晶は高校入学前に引越す事になり、新居での翌日、目を覚ましたら何故か女になっていた。晶が男であった事を覚えているのは父と母のみで、住民票から戸籍まできっちり女性扱いに。

男の時でもアキラLOVEだった父はおおはしゃぎで、母は冷静に女の子教育を開始。本人は混乱しつつ流されつつ『目立たないように過ごそう!』とするお話の予定です。

プロローグ

鏡をじっと見る。

ちよつと釣りあがった、大きな二重の瞳がこちらを見返してくる。顔の輪郭はすつきりした卵型で、眉毛は太すぎず細すぎず。すらつと通った鼻筋に、何も塗ってないのにキレイなピンク色の小さい唇。

漆黒でつやつやな髪の毛は、前は眉毛にかかるくらい。横は軽くに跳ねて頬に少しかかっている。後ろは背中の中間くらいまで伸びており、先つちよを軽く黄色いリボンで結んでいる。

父さんはかわいいかわいいとてもかわいいと、母さんは私に似てほんとうに美人ねえ、私に似てて、などと良く言ってくるので、恐らく可愛くて美人なのだろう。

Yシャツの第一ボタンをとめ、学校指定である一年生用の、緑色で短いネクタイを締める。濃紺で所々金色に縁取りされた襟元が大きく開いたブレザーを羽織る。

厚手の生地の上からでも十分にわかる大きなふくらみを、手でぽふぽふと持ち上げる。はつきり言って大きい。ぶつちやけて言うのと巨乳だ。人を見る分には目の保養で済むのだろうが、自分にくつついているとなるとありていに言って邪魔なだけだ。

腰はやや詩的な表現をすると柳のように細く、お尻は大きすぎず小さすぎずにツンツと持ち上がっている。赤いフレアスカートの先からは、細くすらつとした長い脚。

なんか面倒になってきた。当然ながら肌もきめ細かくて美しいら

しいですよ？要するにかわいくて美人でスタイルも抜群という事らしいのだ。自分ではいまいち自覚できないのだが……。

「行ってきます」

と母さんに一声かけて、表に出る。中学卒業を待たずに引越してきた、まだ二ヶ月もたっていないピカピカの新居を出て、テクテクと歩いて登校する。

この春から通っている光泉学院高校までは、住宅街を抜けて商店街へ駅前通りを抜けるまで15分、そこから更に10分弱の、合わせて30分かからない程度。自転車通学が認められている距離ではあるが、慣れないスカートで自転車に乗るという行為がどうにも不安だったので、諦めて徒歩で通っている。

学校に近づくにつれ、同じく登校中の生徒も増えてくる。他の人に目を合わせないで済むよう、目立たないよう、うつむき加減になりながら道を進む。別にいじめられている訳ではないデス。間違つてクラスメートに遭遇したりして教室までおしゃべりをする等という事態を避ける為の、自衛の手段なのデス。その他諸々もありまして。

チャイムが鳴りだすキツチリ10分前に正門に到着。生活指導の先生が門の横に立っているが、近隣では名の通った進学校であり周囲の治安も良く生徒のモラルも高い事から、仕事がないと思われるいや、授業も担当してるから仕事がないというのは言い過ぎか。その先生に軽く会釈をして正門を通過。

今日も何事もなく過ごせますように。変なボ口を出さずに済みま

すよつに。目立たず、騒がず、ひっそりと。そうだ、今日は本屋に寄ってから帰ろうかな。と、一限さえ始まっていないのに帰りの事を考えたりしつつ下駄箱を開けると……。

ラブレター

誰かと間違えてたりしてないかな。というか間違いであって欲しいんだがな。

裏返すと、宛名が書いてありましたよ。

『美里 晶』様

様付けとは丁寧ですネ……。美里 晶。ミサト アキラ。うん、オレの名前だ、間違いはないです。

せめて女の子からなら……。いや女の子からでもどうしようもないけど。オレも今は女だしな。でも男と付き合う気はないな。元々そんな異性に興味はなかったけど、女になったから男と付き合いますとかありえない。友達さえ作らなかったのに彼氏とかホントありえない。ありえない……

というか少しくらい噂になってもいいだろ、美里 晶は男に興味は無いって！オレは入学してしてから何人ふつたと思ってる！？ああ、自分でも嫌なセリフだなこれ！俗に言うイヤな女だな！！オレが悪いのか？なにもしてないのに！大人しくしているのに！！ううー！！！！

「……今日からは『ワタシに関わるなオーラ』を120%増しで出して過しそつ」

そつつぶやいて足取りも重く教室に向かっただった。

プロローグ（後書き）

初投稿なので見苦しい点が多々あると思いますが打たれ弱いチキンなのでご容赦を。

微妙にリアル、微妙にファンタジーで行きたい所存です。

いきなり女なんてありえない

ピピピピッ！ピピピピッ！ピピピピッ！

目覚ましの音で目が覚める。休みの日でも規則正しく！がモットーの母さんの教育の賜物で、春休みとはいえ必ず7時には起きる事になっている。

が、正直つらい。昨日は引越しの片付けで色々遅くまで荷物を上げ下げしたり、すぐ使う物を引き出したりでだいぶ疲れたし。目が覚めたとは言え半分寝てる状態だ。

ピピピピッ！ピピピピッ！ピピピピッ！

うっとうなり声を上げながら目覚ましをストップ。ふあ〜と大あくびをしながら起き上がって腕を伸ばす。ん？なんか黒くてさらさらした物が視界に入るな、髪の毛…？

まあいいや、それにしても眠いから下に行つて顔を洗つてこよう。なんか体の変だな？半分寝てるし疲れてるのはわかるけど軽くて重い？訳がわからないと思うけど、自分でもわからない違和感がある。

階段をトントンと降りる。なんか胸の辺りがぼよんぼよん跳ねてるけど何だろう？う〜ん、まあいいか。ふあ〜とまた大あくび。ん？なんか妙に声が高いな。ま、気のせい気のせい……。

洗面所に到着。大きな鏡に広い洗面台。まだ3月になったばかりで水は冷たい。手で触れた時点で、お湯を出すかどうか悩んだが覚悟を決めて、えいっと顔を沈めばしゃしゃと洗う。

ひ〜！死ぬ、死んでしまう〜！などとアホな事を思いながらつて何だこの長い髪は。まあいいや、これでバッチリ目が覚めたな。

タオルでごしごしを顔を拭いて鏡を見ると、何か女の子がいた。

たっぷり30秒ほど女の子を眺めた後、まだ目が覚めてないんだな、と判断した。おかしいな、すっきりさっぱりぶるぶるさむさむしたのにな。もっかい顔を洗おう。

冷たい！もう春なのに冷たい！こんなんぜつたい死んでしまおうわゝゝ！などとバカなことを思いながらって髪の毛邪魔だな。まあいや、今度こそ目が覚めたな。で、鏡を見るとやっぱり女の子がいた。

この子おっぱい大きいな、って女の子の胸をじろじろ見ちゃダメだな。鏡の中の女の子も視線が胸に行ってる気がするけど気のせいだ。あれだな、歯を磨くと目が覚める気がする。そうだ、歯を磨こう。

ハブラシとってゝ、歯磨き粉つけてゝ、水をふくんでゝ。怖いので鏡を見ないように俯いて一心不乱に歯を磨く。ごぼごぼごぼ……、ぺっ！お口すつきり。さて、鏡を（略

じーっと見る。右手を上げると左手が上がる。にっこりしてみる。にっこりされた。グーチョキパー。グーチョキパー。うん、アイコだね。

さらにじーっと見る。よおおおおく見ると顔のパーツはオレだ。少し線が細くなってるが15年つきあってきた自分の顔だ。女顔でよくからかわれたりいじめられたりもしたので、恥ずかしながら怖い顔の練習もしたことがある。結論としては怖い顔は無理だったので、表情を消して威圧的な雰囲気を出そうと努力して、こちらはプ

ち成功。オレに関わるなオーラを出せるようになった（つもり）のだ！ってどうでもいい。

髪の毛長いな……、腰まではいかないが背中の中ん中くらいまで伸びてるかな？正直バサバサとつつとおしい。一晩でここまで伸びるなんて何て非常識なんだ。いやそれ以前に……

「……なんで女の子になってるんだよ」

うげっ、声まで高い！高校生にもなるかってのに成長が遅いのか、声変わりもまだか？ってくらいオレの声は高かったのだが、これはマジで女の子の声だ。あっあー、あうあうあう。ダメだ、自分が出してる声だ。

次、胸。おっぱい。でかい。心なしか肩が重い。男の時は、というかつい昨晚までは自分の成長の遅さを気にして悩んでたのに何でこんなに育ってるんだよ！ホントにこれ自分のか？ちよっと触ってみよう。

ふにふに。ふにふに。やわらかいなこれ。ふにふに。ふにふに。触り心地はいいな。ふにふに。ふにふに。よく、気持ちいいって聞くけどくすぐったいだけだな。ふにふに。ふにふに。

堪能してしまった……。自分のだから興奮するとかは無かったけど。あつたら変態だしな、うん。

次、下。下！？うう、確認したくない。ここまでやっておいて今更

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家なるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8949z/>

美少女なんてありえない

2011年12月28日03時45分発行